

登録コード	UAC67500	開講年度	2026				
授業題目	東洋史研究			担当教員	新津 健一郎		
				副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・6 時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー該当							
(1)授業の達成目標				授業で得られる「学位授与の方針」		【授業の達成目標】	
				2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学			
				【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。		東洋史学分野における研究内容と研究史の展開に関する理解を基盤として、自身の研究課題の学史的意義を考察することができるようになる。	
				【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。		東洋史分野の研究手法及び研究史の展開を理解することにより、学術研究と社会的課題との連関について具体的に考察できるようになる。	
				【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。		東洋史分野の研究手法及び研究史の展開を理解し、学術研究と社会的課題との連関について省察を深めることにより、各自の研究課題の社会的意義について具体的に述べるができるようになる。	
				【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。		歴史学及び東洋史学分野の知識体系及び研究動向を俯瞰し、それを踏まえて各自の研究課題の学術的位置づけを具体的に述べるができるようになる。	
(2)授業の概要				2023年、『岩波講座 世界歴史』シリーズが完結した。同名のシリーズはこれまでに2度、おおむね25年程度の間隔で刊行されてきた。いずれも、各時期の日本における外国史（東洋史・西洋史及び関連領域）研究の成果・課題を系統的に整理し、歴史像及び議論の到達点を示したものである。そこで本授業では、各シリーズから14世紀以前の東アジアを扱った巻を取り上げて精読・批評及び比較・討議を行う。これによって「古代・中世」を対象とした東洋史研究の展開を理解し、東洋史学をフィールドとした課題解決のための専門知識と分析能力を養成する。			
				参加者には、第一シリーズ（1969-71）、第二シリーズ（1997-2000）、第三シリーズ（2021-23）においてそれぞれ東アジア世界の形成／展開を扱った巻を割り当てる。担当者は割り当てられた巻を精読し、「なぜそのような叙述になったのか（歴史像）」「年代ごとに叙述はなぜ／どう変わったか（具体的論点）」という問題を軸に、要求事項（ガイダンスにて指示）を踏まえたレジュメを作成して授業に臨むものとする。授業では、順を追って各シリーズ・各巻に焦点を当て、さらに時代像を描いた部分、論点を取り上げた部分に分けて検討を進める。なお、要求事項は参加者の状況（人数・実際の研究課題等）に応じて具体的文言を調整の上、伝達する予定である。はじめに当該巻の担当者が要求事項に沿って要約及び批評からなる報告を行い、その後、その他の参加者が各自の担当巻との共通・差異・変化に注目して意見を提示する形で討議を進める。さらに報告者は、授業終了後、討議を踏まえた書評レポートを作成し、学期末に提出するものとする。			
(3)授業計画				第01回 ガイダンスと担当の割り振り 第02回 【レクチャー】日本における東洋史学研究の展開 第03回 【報告と討議】東アジア世界の形成（第一シリーズ第4～6巻、第二シリーズ第3巻、第三シリーズ第5・6巻）：第一シリーズの歴史像を中心に 第04回 【報告と討議】東アジア世界の形成（第一シリーズ第4～6巻、第二シリーズ第3巻、第三シリーズ第5・6巻）：第一シリーズの論点を中心に 第05回 【報告と討議】東アジア世界の形成（第一シリーズ第4～6巻、第二シリーズ第3巻、第三シリーズ第5・6巻）：第二シリーズの歴史像を中心に 第06回 【報告と討議】東アジア世界の形成（第一シリーズ第4～6巻、第二シリーズ第3巻、第三シリーズ第5・6巻）：第二シリーズの論点を中心に 第07回 【報告と討議】東アジア世界の形成（第一シリーズ第4～6巻、第二シリーズ第3巻、第三シリーズ第5・6巻）：第三シリーズの歴史像を中心に 第08回 【報告と討議】東アジア世界の形成（第一シリーズ第4～6巻、第二シリーズ第3巻、第三シリーズ第5・6巻）：第三シリーズの論点を中心に 第09回 【報告と討議】東アジア世界の展開（第一シリーズ第12巻、第二シリーズ第9巻、第三シリーズ第6・7巻）：第一シリーズの歴史像を中心に 第10回 【報告と討議】東アジア世界の展開（第一シリーズ第12巻、第二シリーズ第9巻、第三シリーズ第6・7巻）：第一シリーズの論点を中心に 第11回 【報告と討議】東アジア世界の展開（第一シリーズ第12巻、第二シリーズ第9巻、第三シリーズ第6・7巻）：第二シリーズの歴史像を中心に 第12回 【報告と討議】東アジア世界の展開（第一シリーズ第12巻、第二シリーズ第9巻、第三シリーズ第6・7巻）：第二シリーズの論点を中心に 第13回 【報告と討議】東アジア世界の展開（第一シリーズ第12巻、第二シリーズ第9巻、第三シリーズ第6・7巻）：第三シリーズの歴史像を中心に 第14回 【報告と討議】東アジア世界の展開（第一シリーズ第12巻、第二シリーズ第9巻、第三シリーズ第6・7巻）：第三シリーズの論点を中心に 第15回 総括（授業アンケート等も含む） 期末試験は行わない			
(4)成績評価の方法				1）担当した巻に関する報告（40％） 2）担当した巻以外の回における討議への参加と貢献（20％）			

(4)成績評価の方法	3) 書評レポート(40%) 以上の材料を総合して評価する。
(5)成績評価の基準	・所定の内容について、概ね正確に内容を理解・分析して述べることであれば「合格水準にある」といえる。 ・所定の扱われた内容について、的確に内容を理解・分析して述べることであれば「やや上にある」といえる。 ・所定の内容について、的確に内容を理解・分析したうえで、研究史及び論点の推移を含めて概ね正確に述べることであれば「かなり上にある」といえる。 ・所定の内容について、的確に内容を理解・分析したうえで、自身の研究課題や問題意識を踏まえて系統的に意義付けて述べることであれば「卓越している」といえる。
(6)事前事後学習の内容	・担当した巻について、時間をかけて可能な限り丁寧に精読すること。 ・担当した巻における各章執筆者の実証研究をある程度読み込み、議論の根拠を理解しておくこと。 ・討議の前提として、担当した巻以外の各章執筆者についても、実証研究をある程度読み込んでおくこと。 ・担当した巻に関する報告と討議を踏まえて再度当該巻の精読及び関連する実証研究の読み込みを行うこと。 ・以上を踏まえて書評レポートを作成すること。
(7)履修上の注意	・報告担当者の欠席は厳禁。 ・報告の分担等については受講者の研究分野に応じて対応する。なお本授業は大学院科目であるので、参加者には、要求事項を機械的に消化するだけでなく、自身の研究課題と関連付けた積極的な学修活動を展開することを強く希望する。 ・報告担当以外の回でも十分に予習したうえで参加することが必要である。
(8)質問,相談への対応	・原則として電子メール(アドレスはeALPSまたは履修案内から確認できる)により対応する。返信には時間を要することがあるので余裕をもって連絡されたい。 ・面談(対面・遠隔いずれでも可)を希望する場合は電子メールでアポイントをとること。
【教科書】	荒松雄ほか編『岩波講座世界歴史』第4・5・6・12巻、1970-71年。 樺山紘一ほか編『岩波講座世界歴史』第3・9巻、1998・99年。 荒川正晴『岩波講座世界歴史』第5・6・7巻、2021-22年。
【参考書】	分担執筆者の論著及び各章の参考文献の中から、授業内で紹介する。